

**第10回 大井川流砂系総合土砂管理検討管理委員会  
議事要旨**

日時：令和6年3月15日（金）10：00～12：00

Web 会議

**【議事】**

1. 本会議の論点
2. 総合土砂管理計画の位置づけ
3. 第一版のフォローアップ
4. 第二版の検討
5. 今後の予定

**【議事要旨】**

**1. 本会議の論点**

**事務局説明** 事務局より、大井川流砂系総合土砂管理計画の本委員会の論点について説明

**主な意見等** 特になし

**2. 総合土砂管理計画の位置づけ**

**事務局説明** 事務局より、総合土砂管理計画の位置づけについて説明

**主な意見等** 特になし

**3. 第一版のフォローアップ**

**事務局説明** 事務局より、第一版のモニタリングについて説明

**主な意見等**

**(1)モニタリング全般**

- 「大井川流砂系協議会や情報連絡会議等、関係者間での情報共有や調整は、今後ますます重要になると考える。各領域間で連携している対策については、さらに詳細な情報を共有したり、そのためのモニタリングを実施して効果を計測できるとよい」旨の意見

**(2)水文関係**

- 特になし

**(3)土砂生産・流送領域**

- 「土砂生産・流送領域の土砂生産量の抽出について、河道からの距離で

はなく、流域で区切り抽出するのが合理的である」旨の意見

- 「河床変動やダム堆砂等土砂生産を結び付けた議論をする場合、全体で崩壊面積率を考えるのではなく、ダム集水域で区切られた区間ごとの崩壊地の様子に注目したがよい」旨の意見

#### (4) ダム領域

- 「長島ダムの貯砂ダム上流の堆砂は、利水容量内にもかかっているが、現時点で課題とする必要はないか。また、現時点で問題がなくとも、貯砂ダム上流が満砂となった場合、貯砂ダムを超えて土砂が流入し、洪水調節機能のみではなく、利水機能にも支障を及ぼす可能性が考えられる」旨の意見

#### (5) 河道領域

- 「河道領域の課題を明確化することによって、モニタリングの継続を位置づけることが重要である」旨の意見
- 「扇状地河道領域から山地河道領域にかけて、河床低下が進行しているため、河床変化のバランスの維持と上流からの通過土砂量の考え方を整理するとよい」旨の意見
- 「牛尾狭窄部～塩郷堰堤の区間は河床低下が著しいように見えるが、実際どの程度起きているのか。起きているとすれば、狭窄部における土砂動態等川幅の変化状況が関連している可能性がある。要因として、その区間の砂利採取、塩郷堰堤上流の上流側の河道掘削、牛尾狭窄部の開削などが考えられるが、しっかりとした要因の分析が必要である。また、要因に応じ、土砂移動のバランスを考慮した対策を検討する必要がある」旨の意見
- 「牛尾狭窄部では滯筋が左岸側で固定化しており河道線形上そこで落ち着くように思えるが、実際はどうか注視していく必要がある。また狭窄部周辺の土砂動態、バランスの取れた河床縦断形状を考えると、この部分の洗堀はより深刻になる可能性があるため、状況とともに適切な対策が施されているか確認してほしい」旨の意見
- 「神座付近の粗粒化がみられるようだが、単に上流から供給される細粒分が川幅の狭い区間に残らず通過しているだけなのか、細粒分が減ってきているのかが分からない。川幅の変化に応じて河床に残るものと残らないものが変化するため、適切な粒径が運ばれているのか、今後下流域や海にとって必要な粒径が継続して供給されるのか、土砂の流下粒度情報も把握することが望ましい」旨の意見

- 「粒径に応じた整理は、実績のみでは判断が難しく、シミュレーションと組み合わせた分析が必要になると思われる」旨の意見

#### (6) 海岸領域

- 「平面的な変動状況の確認に加えて、勾配などを含めた断面形状で評価することが望ましい」旨の意見
- 「アカウミガメの産卵環境の評価として、産卵の有無のみでなく、産卵場に適した環境として、底質、勾配等に関するモニタリング結果も記載するとよい」旨の意見
- 「海岸域では地形や粒径の年変動が大きいいため、産卵環境の整理にあたっては、マクロ的な視点で評価することが望ましい」旨の意見

### 4. 第二版の検討

事務局説明 事務局より、第二版の検討について説明

主な意見等

#### (1) 土砂動態の把握（土砂動態モデル）

- 「上流モデルが徐々に形になってきたため、早い段階で上下流モデルを接続した流砂系全体の結果を示すとよい。精度についての課題は今後も残るが、モニタリング結果に応じて随時更新していくことでよいと考える」旨の意見

#### (2) 土砂管理目標

- 特になし

#### (3) 土砂管理指標

##### 【土砂生産・流送領域】

- 「土砂生産・流送領域の土砂管理目標について、崩壊地面積（崩壊地面積率）、侵食深に着目していくことに同意である。侵食深については計測例が少ないが、過去のデータも参考にしながら把握に努めていただきたい」旨の意見

##### 【ダム領域】

- 「ダム領域のモニタリングについて、貯水容量の確保・維持のための対策手法の検討や上流域の河床変動計算モデルの妥当性検証のために粒度のモニタリングも実施したほうがよい。」旨の意見

##### 【海岸領域】

- 「海岸領域の砂浜環境の回復・保全の管理の目安について、環境の回

復・保全の維持ではなく、創出していく旨の管理目安の修正について、ポジティブな目標のため同意はするが、現状維持も困難である現状を把握した上で、第二版策定に向けてどのような事業を実施していくかを詰めていく必要がある」旨の意見

- 「希少種の生息状況の管理指標については、河道領域のように海岸幅など、具体的にどのような指標に着目して評価すべきかを明記してほしい」旨の意見
- 「海岸領域の土砂管理の目安について、断面形状の基準や必要浜幅等の定量的な指標を考えておいた方がよい」旨の意見

#### 【全般】

- 「定量的に見た方がよい項目もあれば、指標を明確にすることが困難な指標もあると思われるため、管理目標の性質によって、数値目標を定めるとよい」旨の意見
- 「総合土砂管理の中では、評価にふさわしい代表地点を絞り込んでモニタリングを実施すればよく、定量評価のために全体を常にモニタリングする必要はないと思われる」旨の意見
- 「海水位の上昇は、海岸領域のみでなく、河口部の堆積等に影響する。このように評価条件の変化に応じて、管理の目安も変わってくる可能性がある」旨の意見
- 「境界条件の変化、海面上昇、気候変動などを全て総合土砂管理計画に取り込むのは難しく、現状を基準とし、モニタリングによって気候変動の影響等が実測に反映されてきた場合に、PDCA サイクルを回して課題や目標を見直すといった対応が望ましいと考える」旨の意見
- 「粒径に関する情報は土砂管理の骨格的な情報であるため、モニタリングの中で適切に位置づけていくことが重要である」旨の意見

#### 5. 今後の予定

事務局説明 事務局より、今後の予定について説明

主な意見等 特になし

以 上